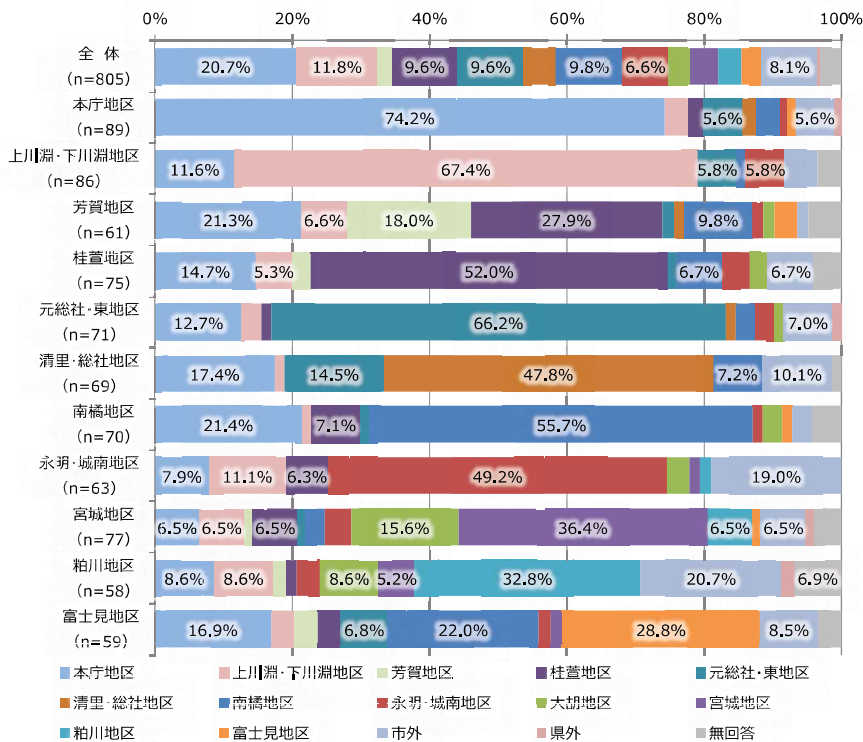


5 通院に関する移動状況

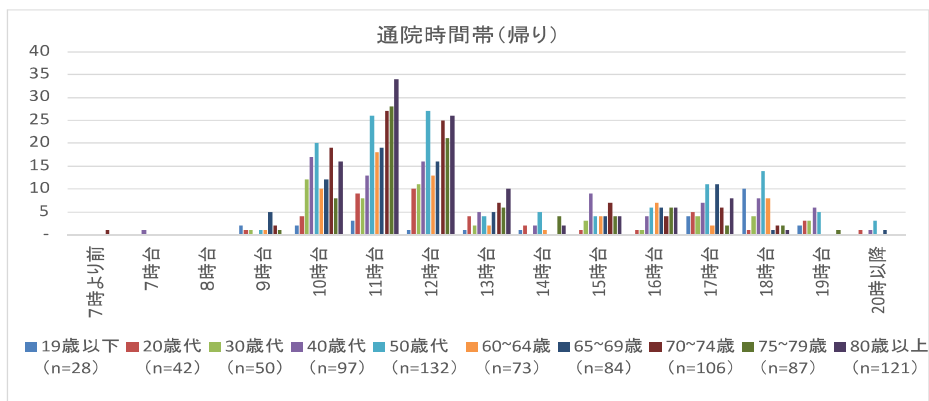
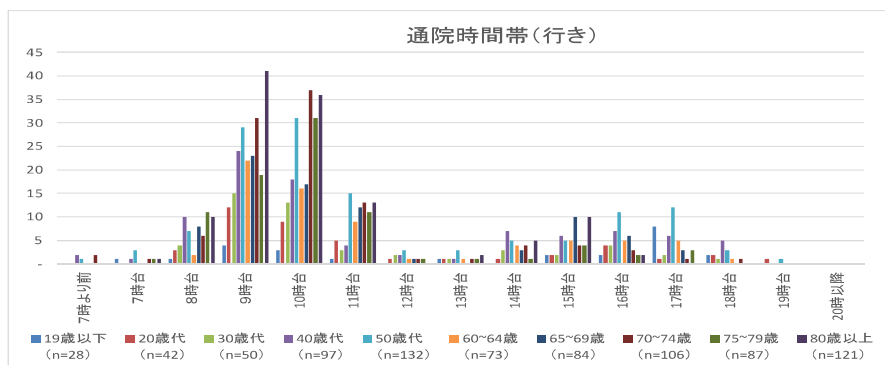
① 通院エリア

買物と同様に居住地と同一地区内での通院が多いが、地区外移動も一定数見られる。買物と比較すると市外への移動が少ない。医療機関が少ない芳賀地区、宮城地区、粕川地区は近隣地区への移動も多い。



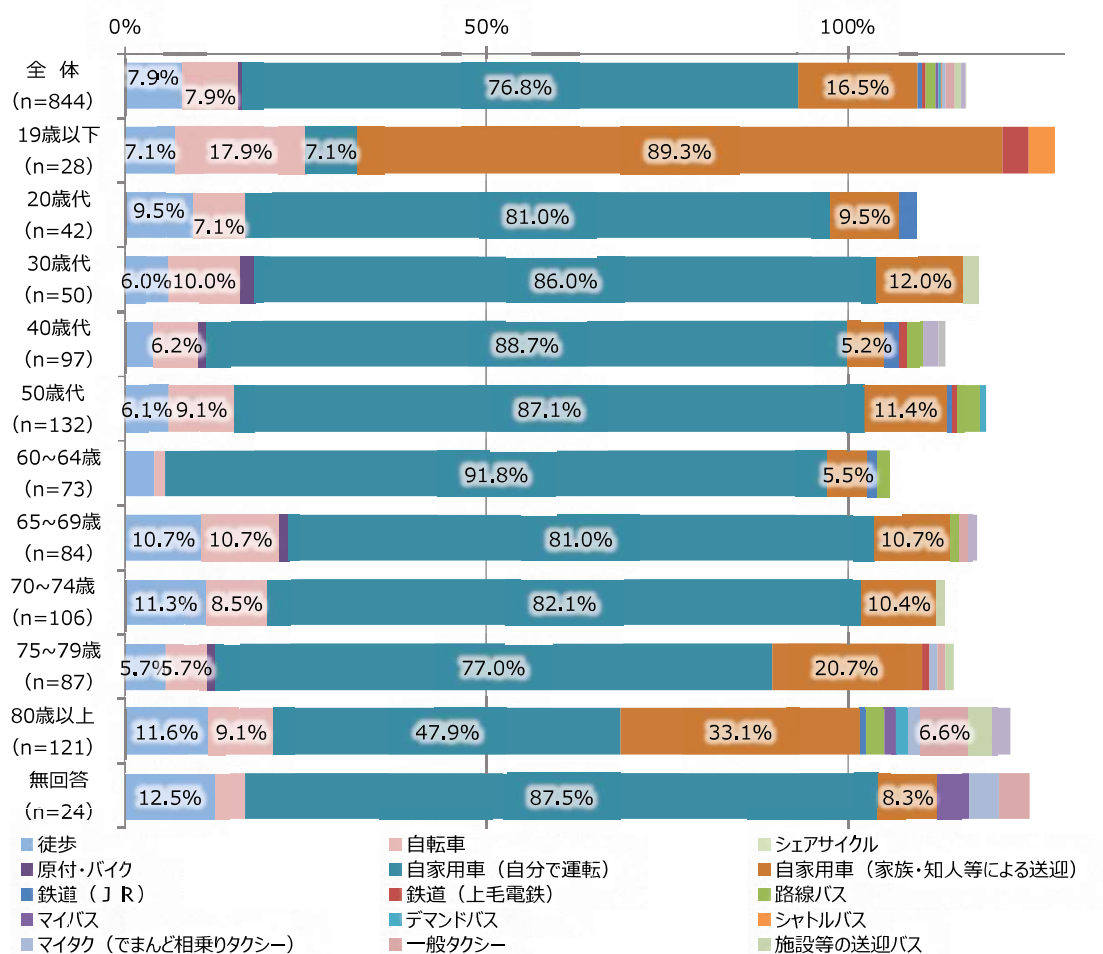
② 通院時間帯

9時台～10時台の移動が多く、特に70歳以上になるとその割合が大きくなる。買物と異なり、帰る時間も12時までが半数を占める。



③ 通院の移動手段

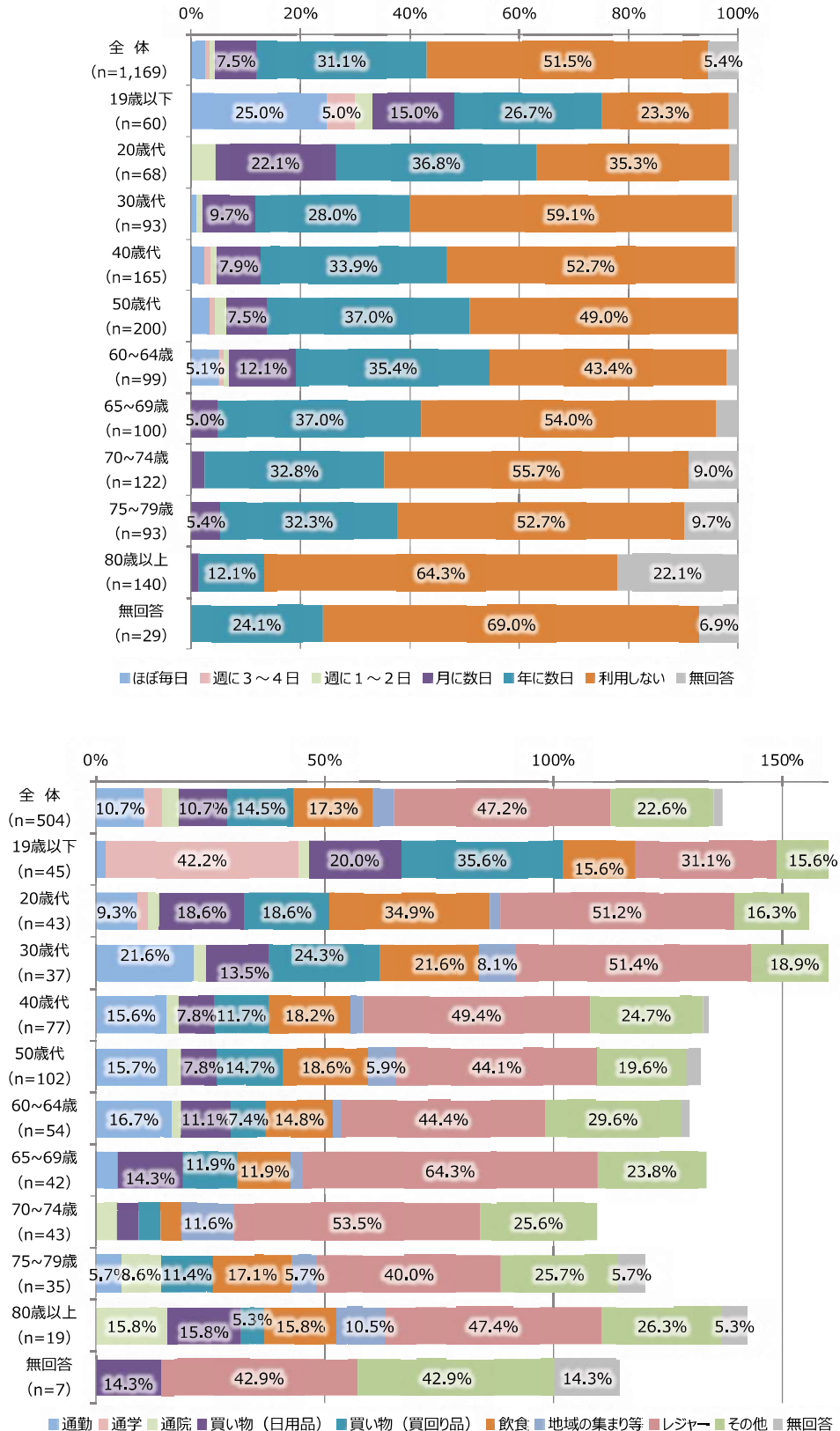
買物同様にほとんどが自家用車（送迎を含む）での移動である。



6 公共交通の利用状況

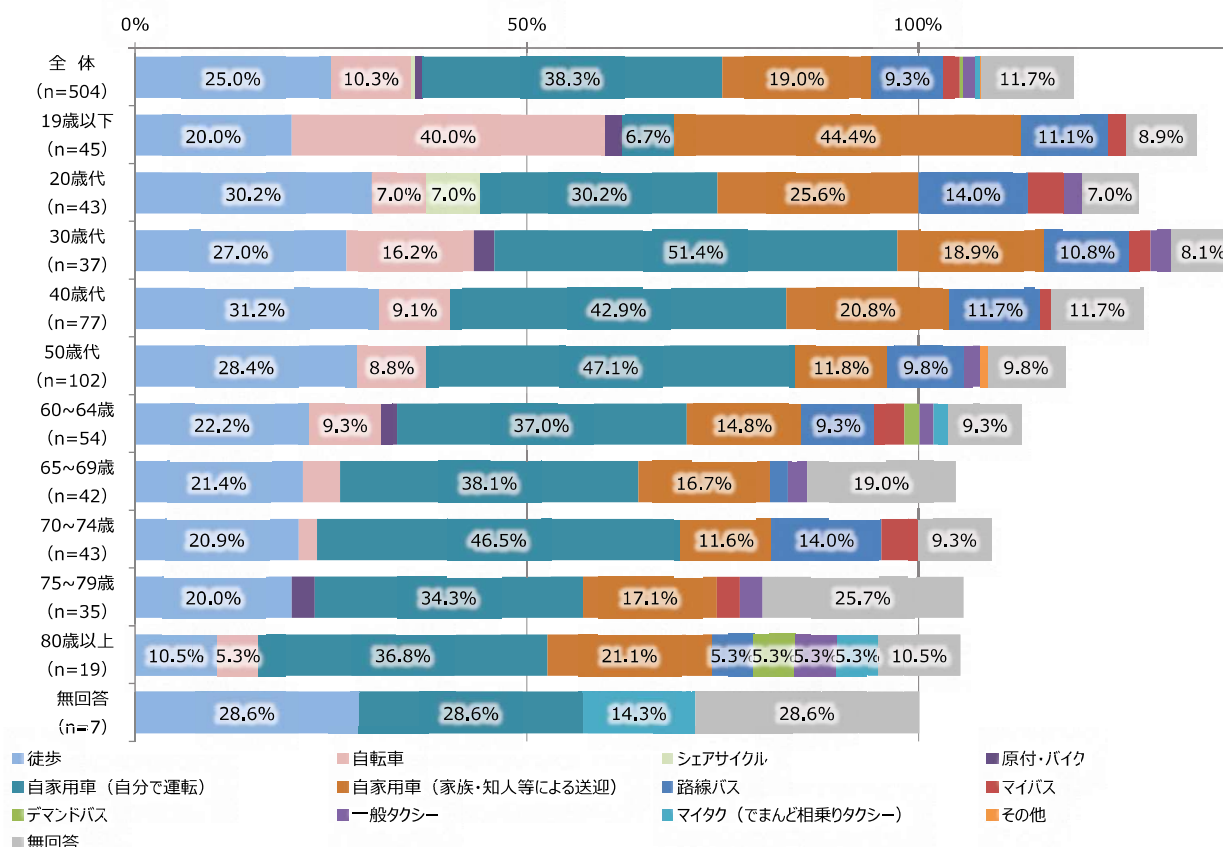
① 鉄道の利用頻度と目的

鉄道利用は若年層で多いが、年に数日程度の利用が31.3%となっている。利用目的はレジャーが47.2%と他の目的に比べて高くなっている。



③ 鉄道駅までの移動手段

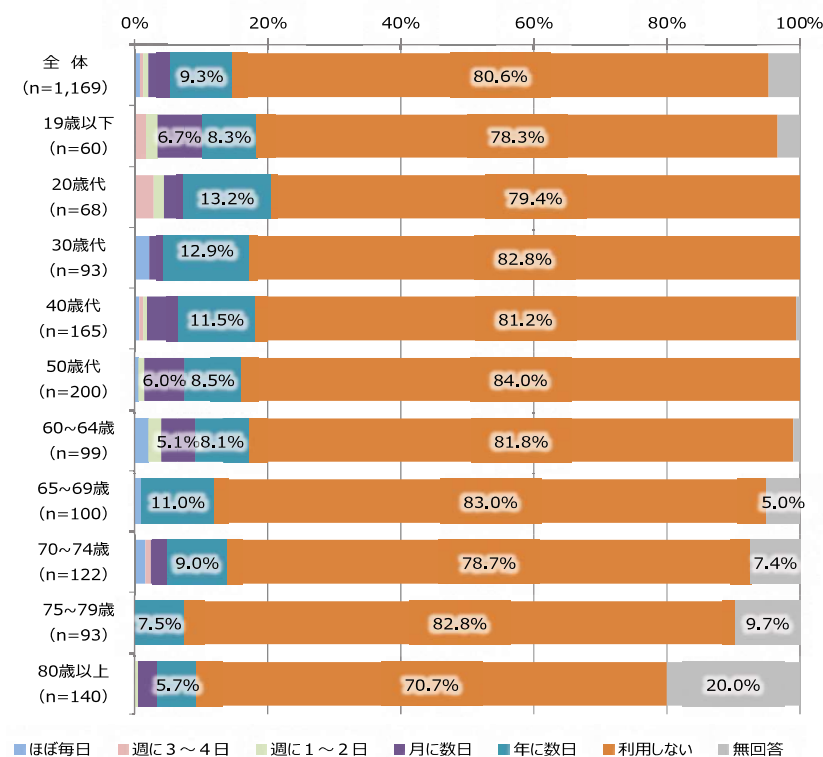
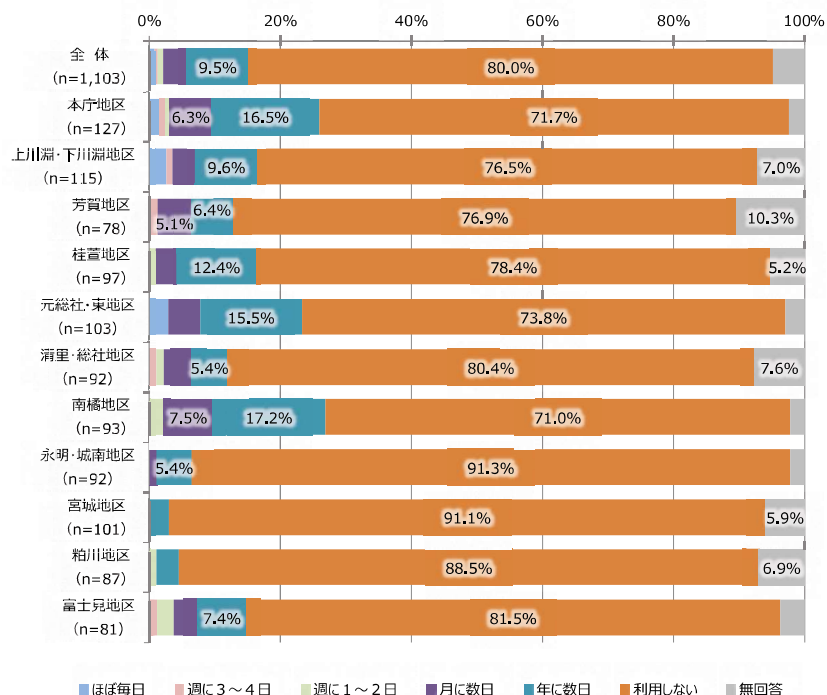
自宅から鉄道駅への移動手段は自家用車が多くなっており、駅周辺の駐車場でパークアンドライドにより利用していることが伺える。バス利用は10%ほどである。19歳以下では、通学手段の結果のとおり、自転車および送迎が多くなっている。



7 路線バスの利用状況と求めるサービス水準

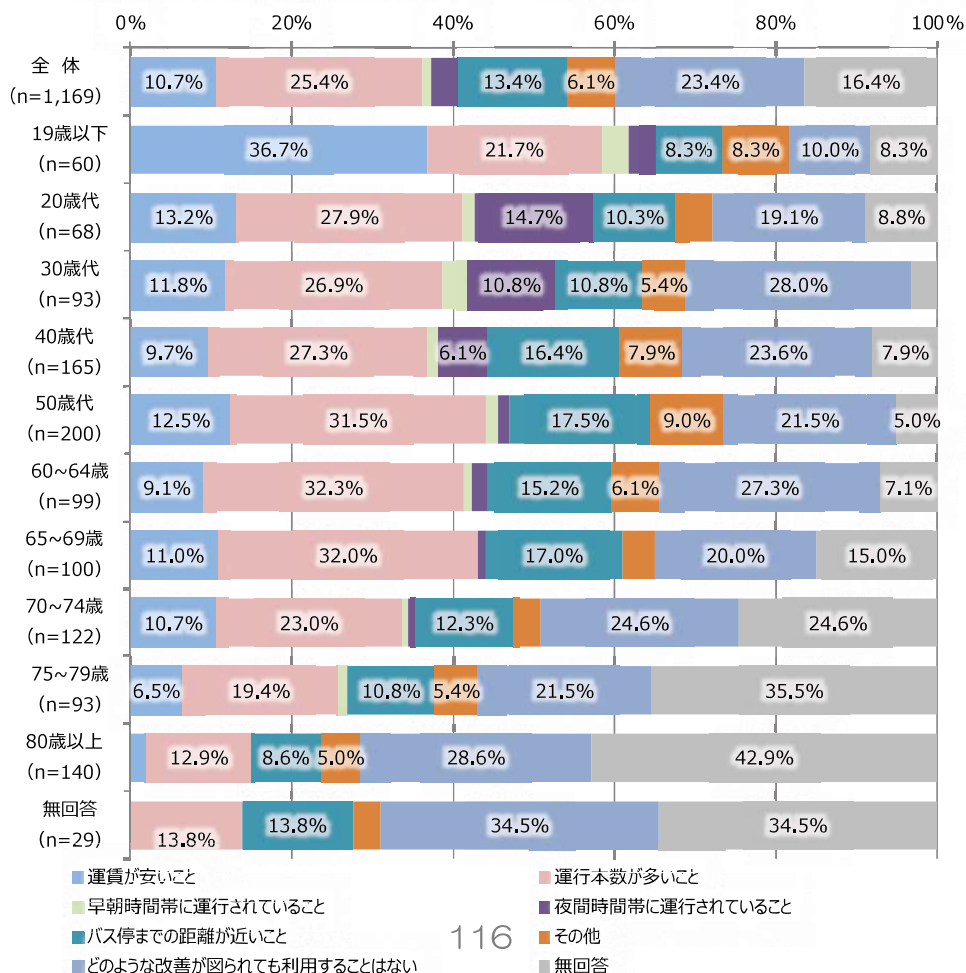
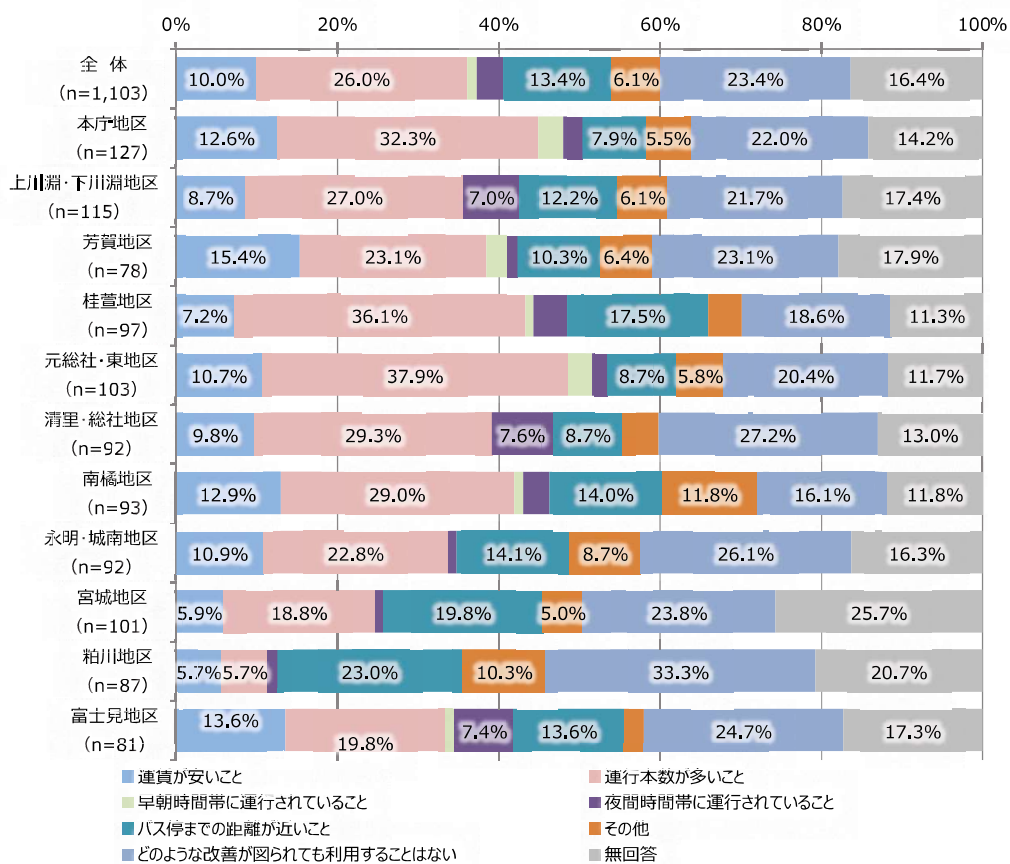
① バスの利用頻度

南橘地区（前橋渋川線）、上川淵・下川淵地区（前橋玉村線）、元総社・東地区（川曲線・前橋高崎線）といった市街地か区域が主要である地域で、比較的バスのサービス水準が高い地区である程度のバス利用が見られる。



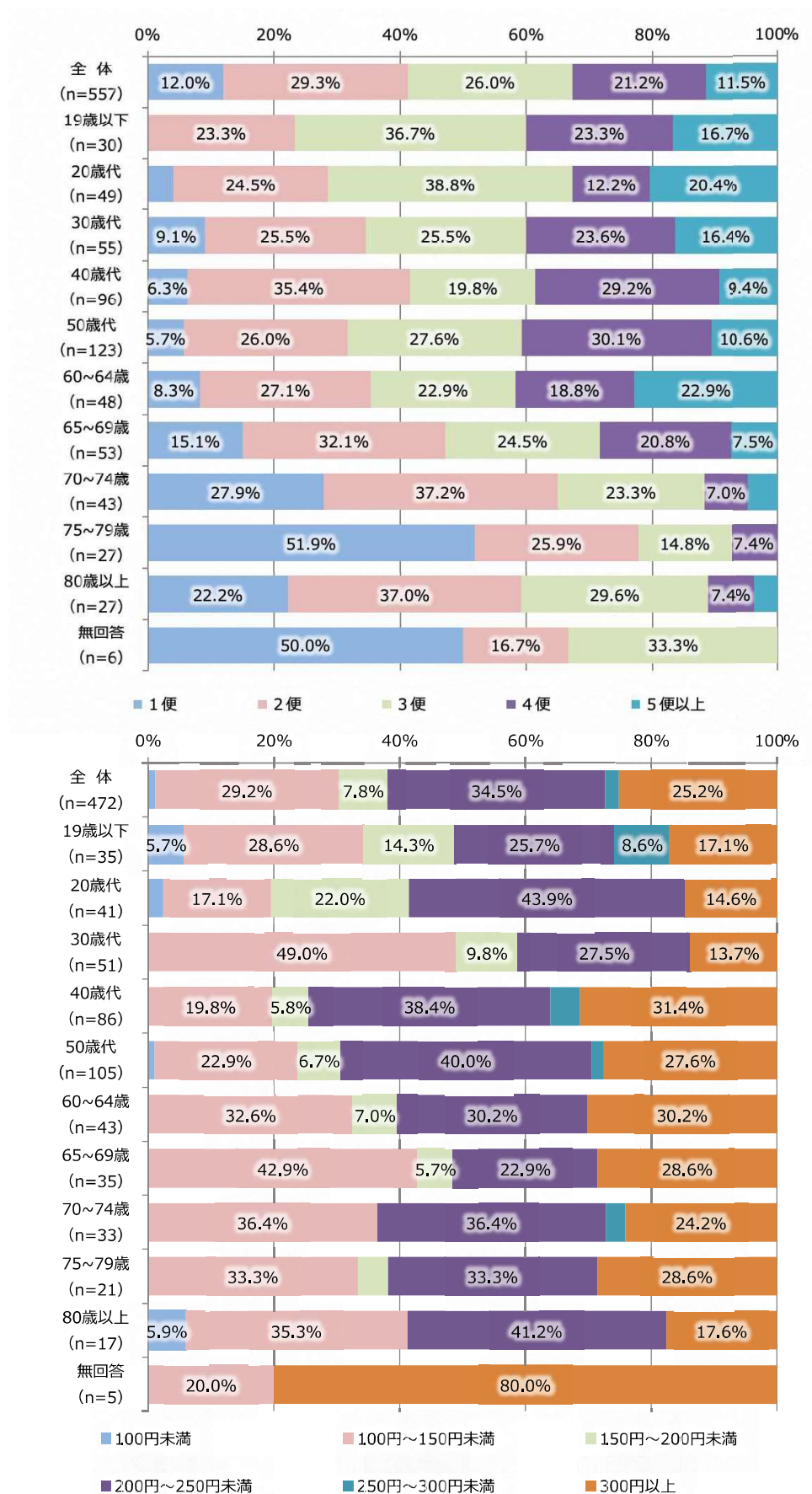
② 路線バスに求める最も重視するサービス水準

全体的に運行本数を重視する地区が多いが、デマンドバスを運行する地区では、運賃やバス停前での距離を重視する地区が見られる。19歳以下では、運賃が安いことを重視している。



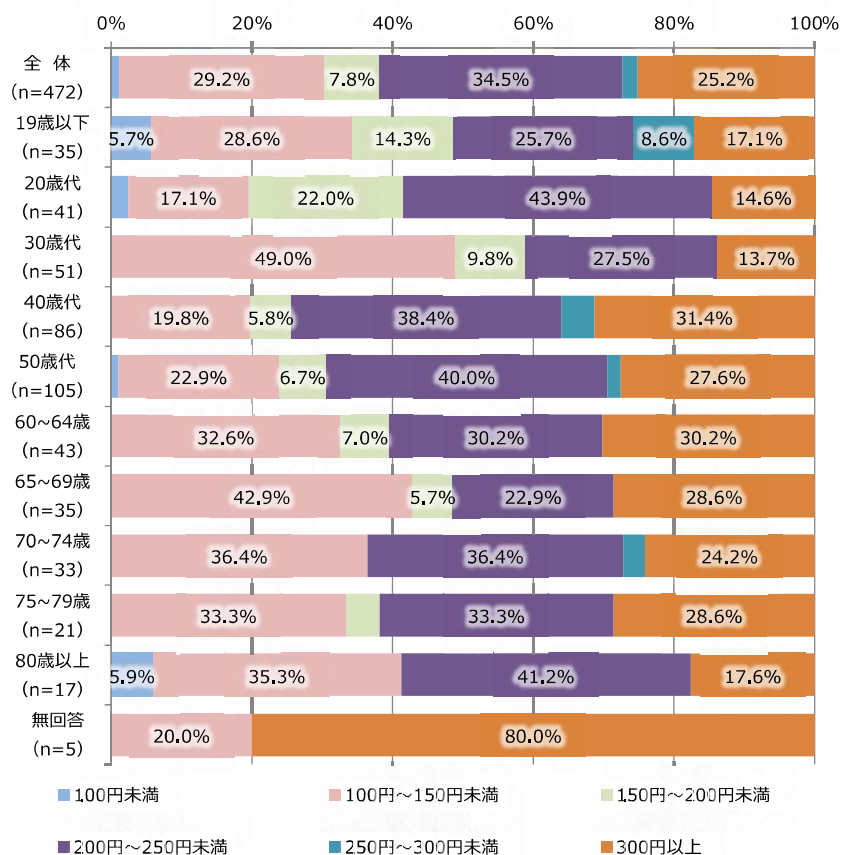
③ 1時間あたりに求める運行水準

全体では、1時間あたりに2～4便が多くなっている。年齢別に見ると高齢の方は1時間に1便の割合が大きくなる。



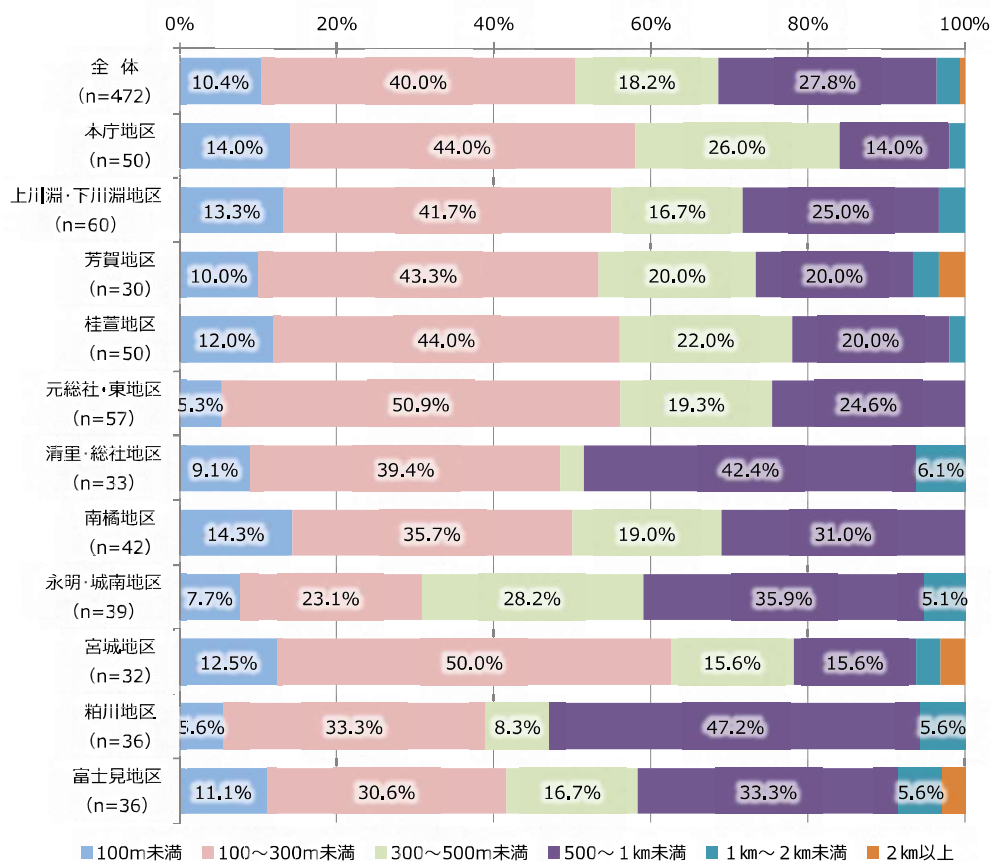
④ 1乗車あたりに求める運賃のサービス水準

運賃は、全体で200円～250円が多くなっており、特に若年層、高齢者が低額な運賃を求めている。



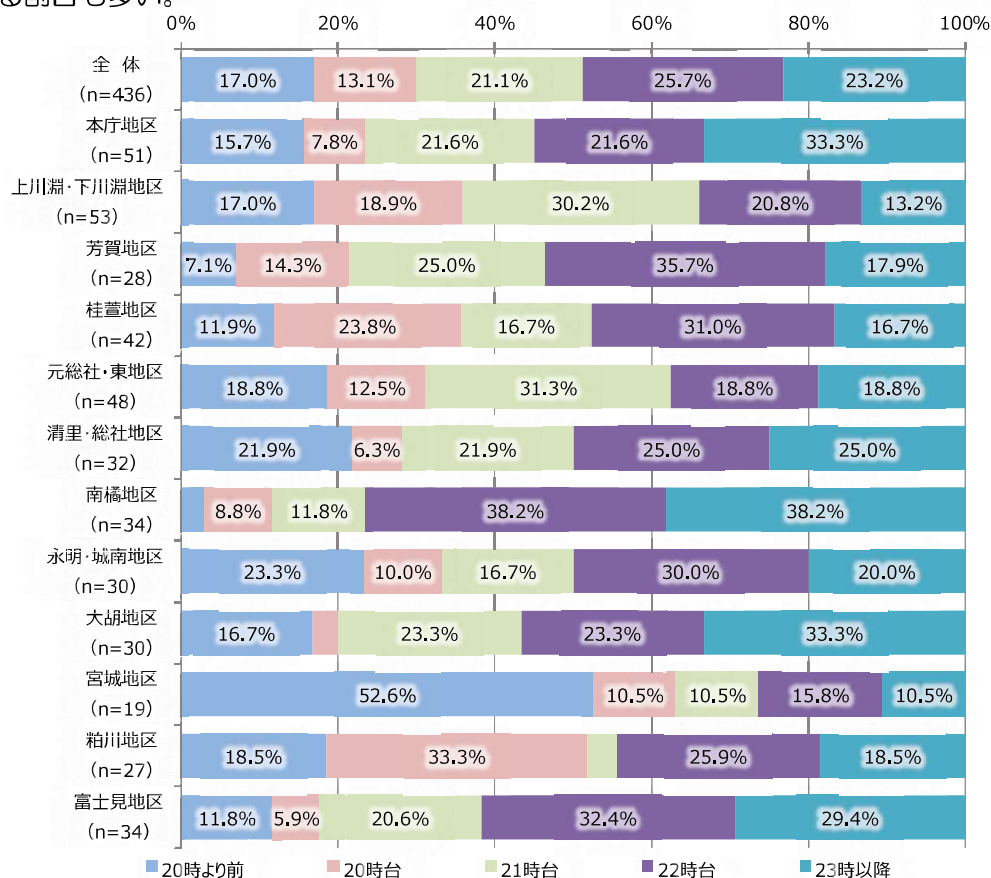
⑤ バス停までの距離に求めるサービス水準

100m～300m未満が多くなっており、地区別に見ると500m～1kmの地区も見られる。



⑥ 夜間時間帯の運行に求めるサービス水準

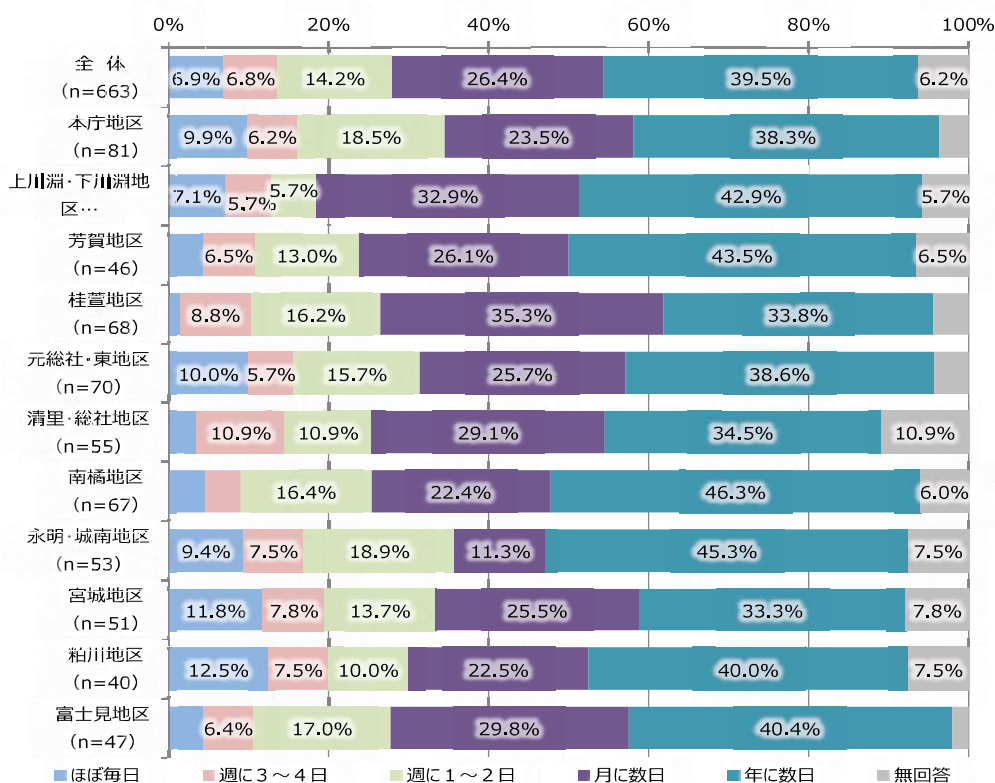
22時台まで運行を求める割合が多いが、現在22時台まで運行をしている南橘地区では23時台を求める割合も多い。



⑦ ①～⑥のサービス改善が行われた場合の利用頻度

市民が求めるサービス水準を確保することで、バス利用者が増加する可能性がある。

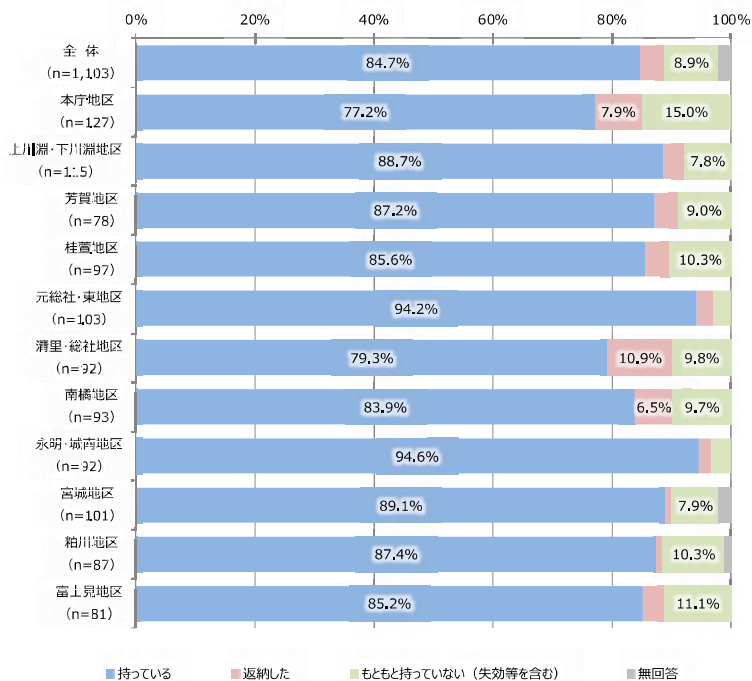
※水準が改善されても利用しないという方がこの他23.3%存在



8 その他

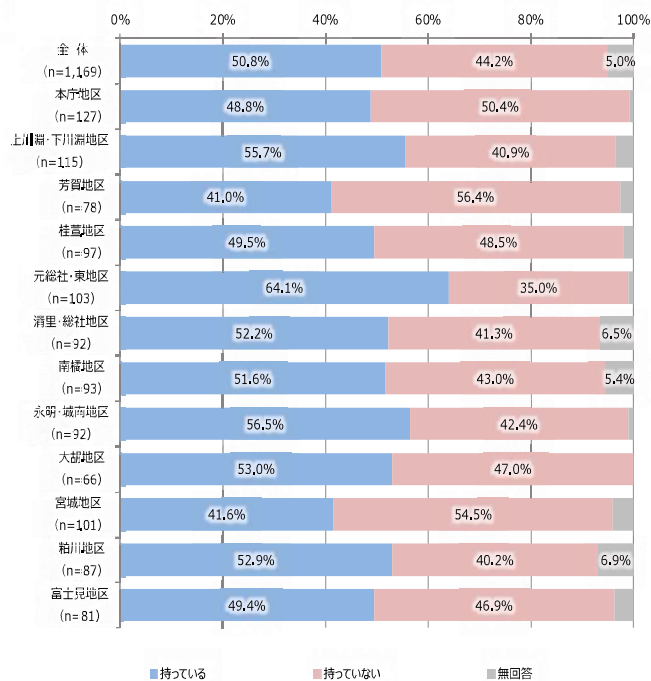
① 運転免許の有無

83.7%が運転免許を保有している。本庁地区や清里・総社地区で非所有の割合が高くなっている。芳賀地区については、高齢者の割合が高いが非所有の割合がそれほど高くない。



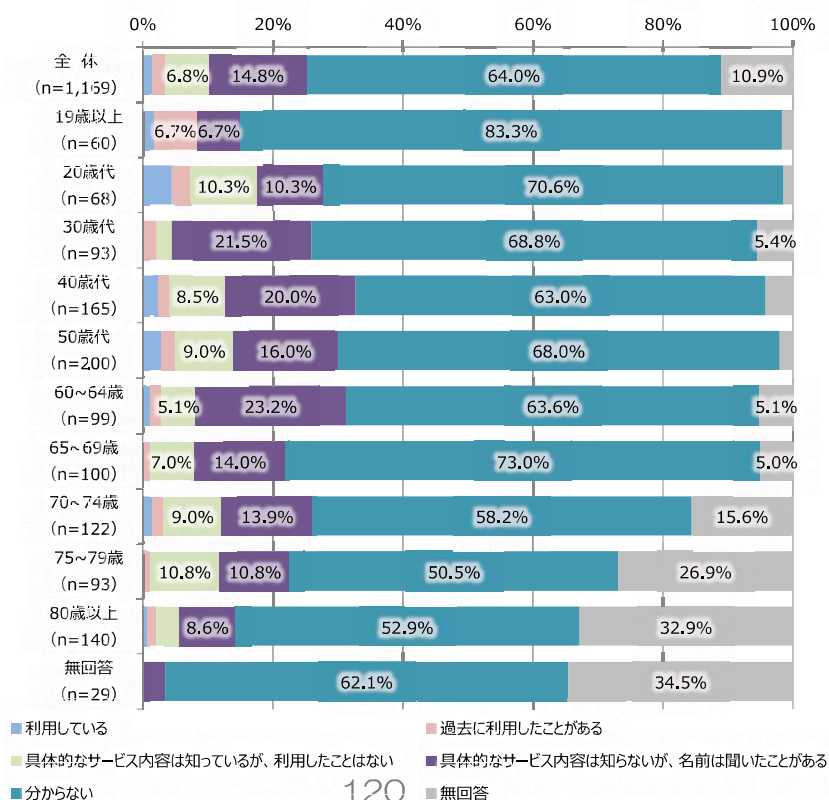
② 交通系 IC カードの保有状況

50.8%が IC カードを保有している。元総社・東地区は保有率が高く、芳賀地区は非保有者の割合が高い。



③ GunMaaS の利用状況

サービス内容がわからない回答者が多い一方で、サービス内容を知っている回答者、認知はしている回答者が 20%を超えている。



（２）路線バス利用者アンケート調査の実施概要

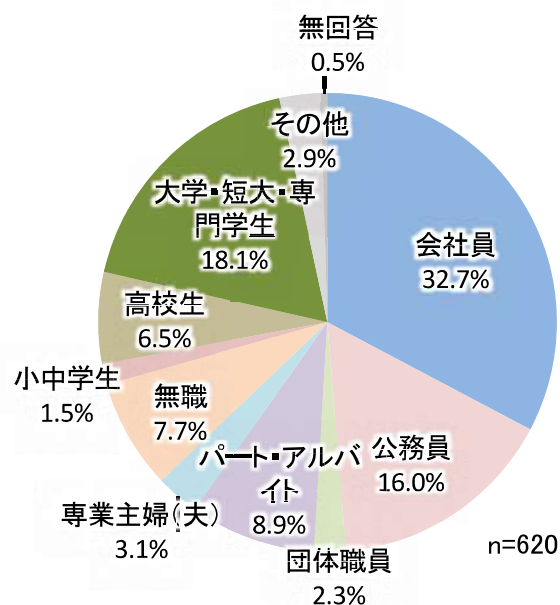
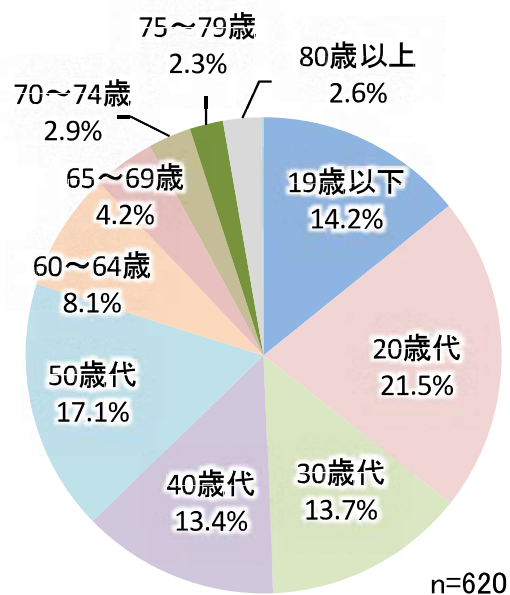
前橋市内を運行する路線バスの利用者を対象に、バス停の利用状況とサービスレベルの問題点を把握し、効率化するバス運行区間と維持するバス運行区間など、路線再編に向けた検討材料とするためアンケート調査を実施しました。

前橋市内を運行する路線バスの利用者を対象に、①駅前配布（前橋駅でバスを待っている方への調査票配布）、②バス車内配布、③バス車内留め置きにより実施しました。

アンケートは 620 人から回収しました。

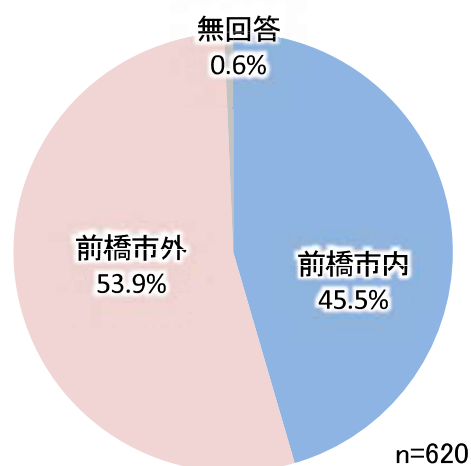
項目	内容
実施時期	令和 7 年 1 月 25 日（土）～2 月 28 日（金）
実施目的	・ 路線バス等の利用状況の把握（利用目的、利用時間帯、利用頻度） ・ 利用頻度が変化した理由
実施方法	・ 駅前配布（前橋駅でバスを待っている方への調査票配布） ・ バス車内配布 ・ バス車内留め置き
対象者	前橋市内を運行する路線バスの利用者
回収数	620 票

1 回答者属性



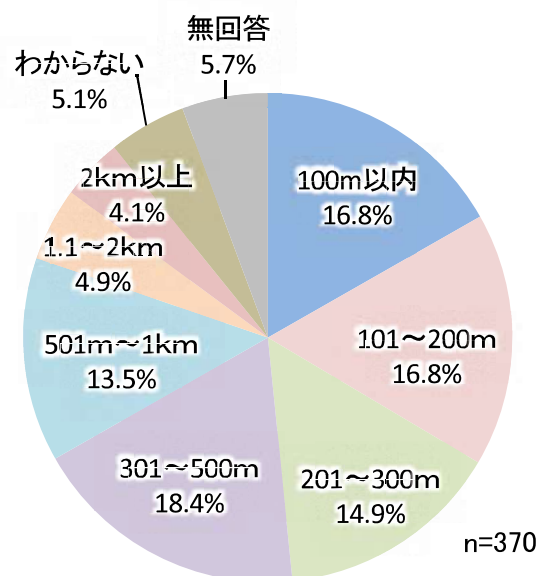
2 利用者の居住

市民、市民以外による利用が半々ですが、
前橋駅での乗車者の回答が多いため、参考値



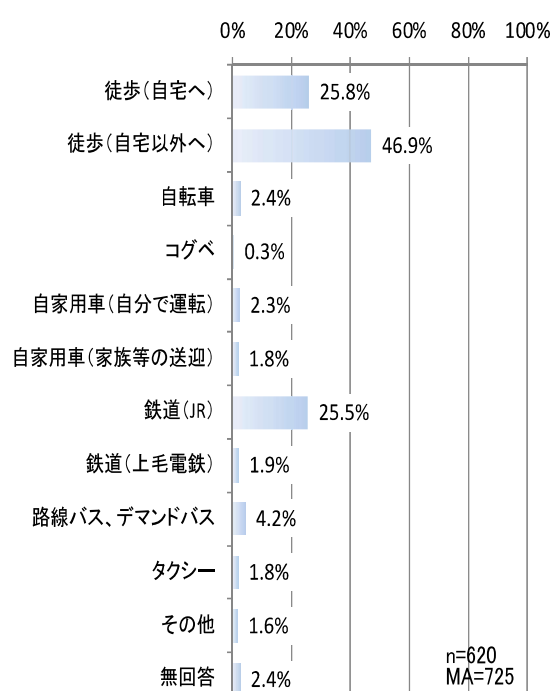
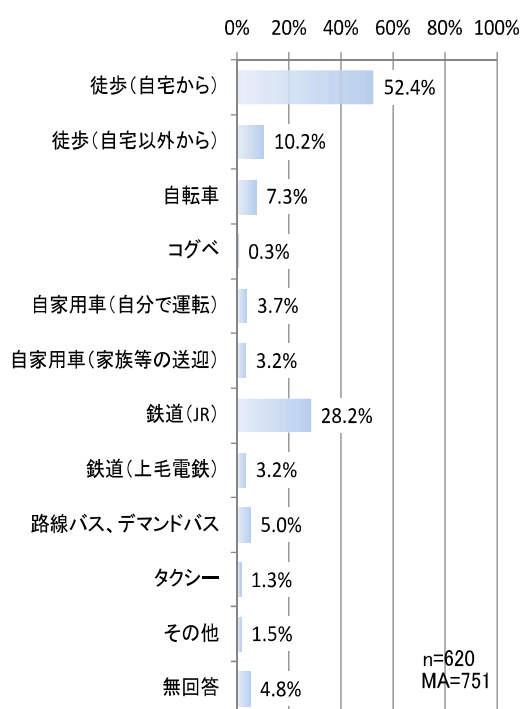
3 バス停までの距離

300m までで48.5%ですが、301m～
500m も18.4%利用されている。



4 バス乗車前の移動手段、乗車後の移動手段

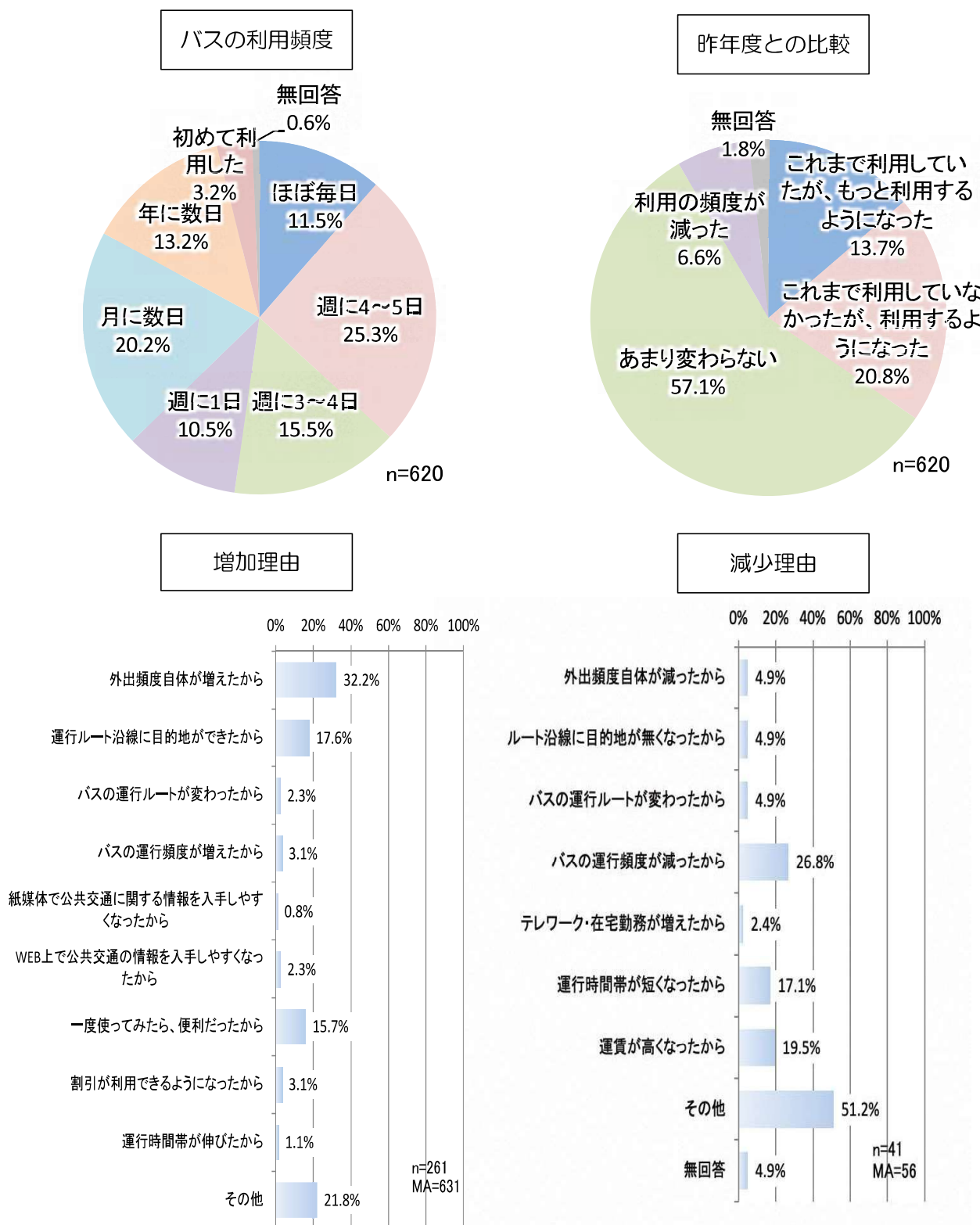
徒歩が多いが、鉄道からの乗り換え、鉄道への乗り換えも見られる。



5 バスの利用頻度

回答者の約半数は日常的に利用しており、約半数はたまに利用している。また、回答者の34.5%が昨年度よりも利用が増加したと回答している。

増加した理由としては、回答数が少なく明確な理由が把握できなかったが、「一度使ってみたら便利だったから」が41人（7.1%）回答。

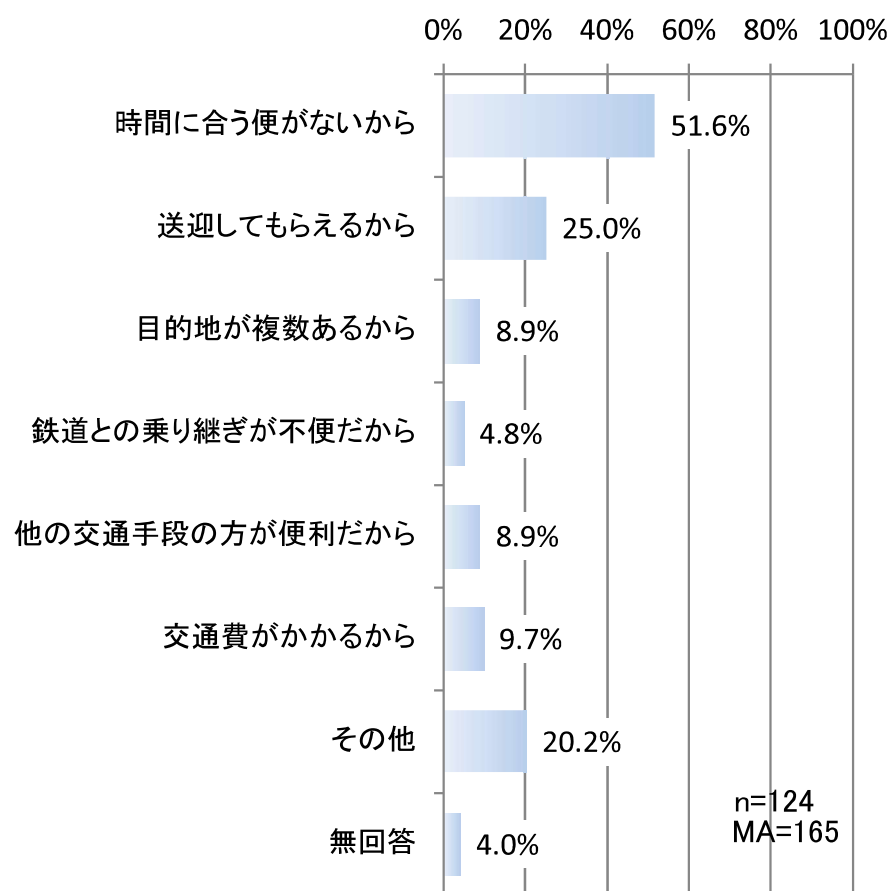
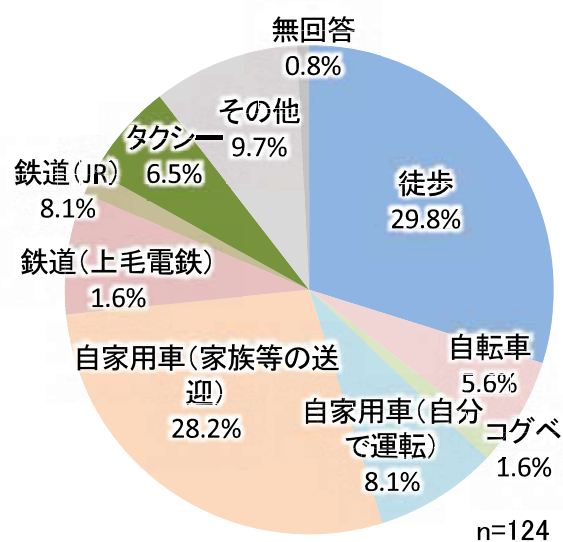
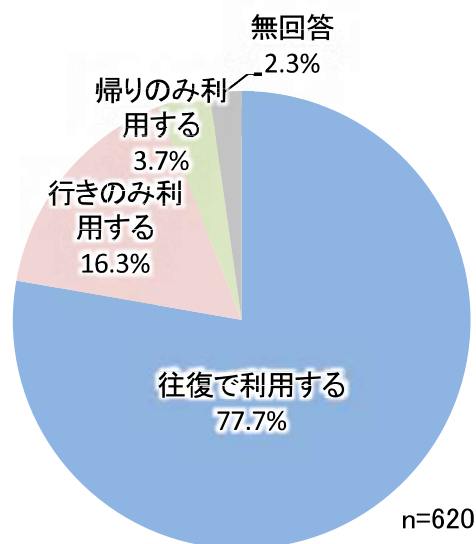


※R1→R5 を比較し、利用者が増加している路線、横ばいの路線、減少している路線の3区分でクロス集計をし、因果関係を分析したが、明確な差は生じなかった。

6 往復利用状況

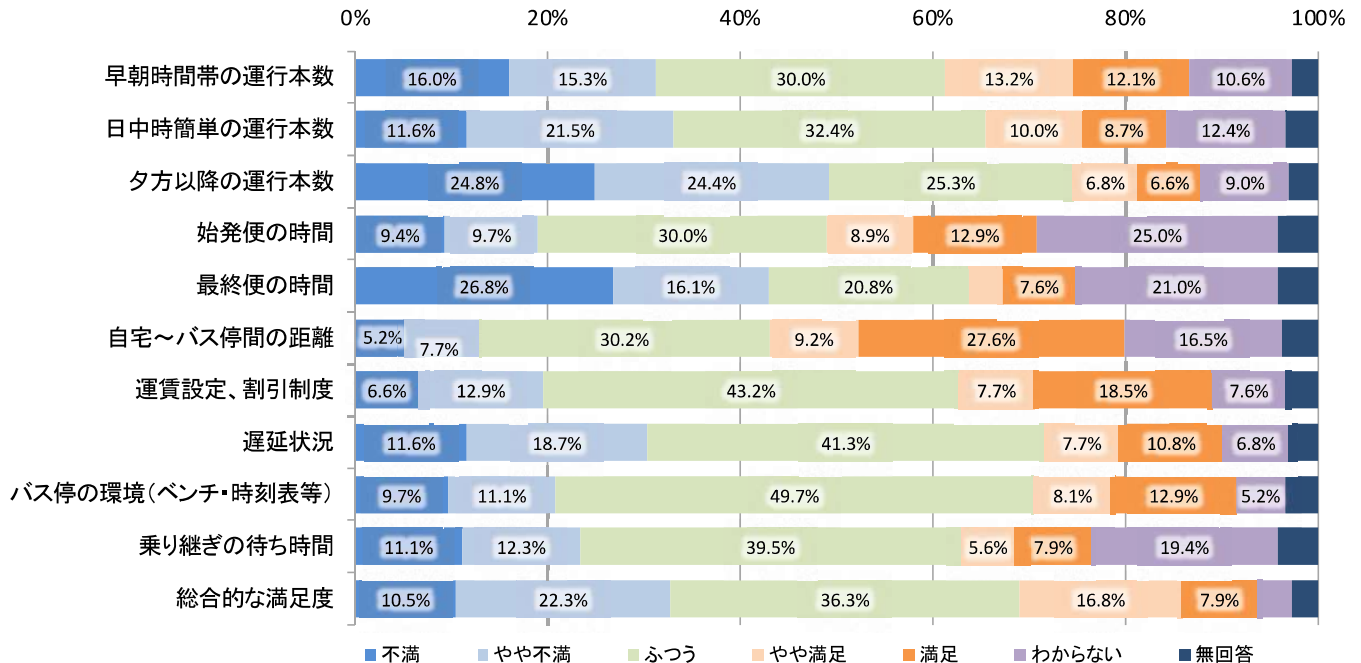
往復でバスを利用している方が77.7%である一方で、20.0%の方が行きのみ、もしくは帰りのみバスを利用。その場合の片方の移動手段は右図のとおり、送迎や他の手段で移動。

要因は、下図のとおり、時間に合う便がないことが主な理由であり、夜間の運行が求められていることが推測できる。



7 バスサービスの満足度

各項目で「ふつう」が最も多いが、始発便、バス停距離、運賃、バス停の環境以外は「満足」「やや満足」を「不満」「やや不満」が上回っており、サービスレベルの改善が求められる。特に夕方時間帯以降の運行の満足度が低い。



8 バスサービスに求める事項

市民アンケート同様、バス利用に際して、運行本数が多いことを最も重視している。

